

競技注意事項

感染症予防に関わる注意事項をお読みいただき、安全に記録会が開催されるようご協力をお願いします。

1. 競技規則について

2023 年度日本陸上競技連盟競技規則および本記録会申し合わせ事項により実施する。また、日本陸上競技連盟の陸上競技活動再開についてのガイダンス「【第3版】競技会再開について 2023 年 3 月 27 日」に基づいて実施する。

2. T I Cについて：競技場正面玄関ホールに設置する。

- (1)『様式B 欠場届』『様式C リレーオーダー用紙』『様式D プログラム訂正用紙』は当日受付と一緒に提出するが、それ以後提出する場合はT I Cに提出する。
- (2)シューズの厚底の計測 ※あらかじめTIC でチェックを受けておくと、招集時に時間がかからなくてよい。
トラック競技 800m 以上の種目は 25mm 以下の厚さ。
- (3)各種問合せ、落とし物の対応など。
- (4)プログラム販売（1 冊 4 0 0 円）数に限りがあります。

3. 招集について

- (1)招集は、1 0 0 mスタート後方のゲートから入ったところで行う。招集後の競技場所への移動方法については「別紙1」を参照すること。
- (2)招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス（ナンバーカード）、競技時に使用するシューズのチェックをする。また、トラック種目で、スパイク以外のシューズを使用する場合は、靴底の厚さを計測する。
※ランニングパンツとスパッツを併用（重ね着）する際はどちらかの商標を隠す。できればランニングパンツとスパッツの併用（重ね着）は控え、どちらか一方のみの着用としたい。
- (3)必ず本人が招集を受けることとし、代理人による招集は認めない。ただし、リレーと個人種目の競技と招集が重なる場合は、その旨を競技者係の審判に伝える。
- (4)トラックの横断は、細心の注意を払うこと。（横断可能な場所は、別紙1を参照のこと）

4. アスリートビブス（ナンバーカード）、腰ナンバー標識

- (1)アスリートビブスは各選手が持参し、そのままの大きさで胸と背部に確実に固定する（跳躍競技については胸または背部どちらかでよい）。今年度より 24 cm×16 cmの大きさに規格が変わっているので注意。
- (2)必ずプログラムに記載されたナンバーカード（登録ナンバーと同一）を用いる。
- (3)800m、1500m、3000m の競技者は、自分のアスリートビブス（ナンバーカード）を胸と背に固定するとともに、招集時に腰ナンバー標識を受け取り、パンツ右側の上部、やや後ろにつける。なお腰ナンバー標識はシール式のため返却はしない。

5. 競技方法について

- (1)トラック競技
 - ①レーン順はプログラム記載の通りとする。
 - ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。

(2) フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載の通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③跳躍種目の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを 2 個まで置くことができる。走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に 2 箇所まで置くことができる。
- ④砲丸投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを 1 つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行う。
- ⑤走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、当日決めることとする。なお、**中学女子の走幅跳は 1 組と 2 組に分けて時間をずらして行うので**、自分の組と時間を確認して間違えないようにすること。
- ⑥棒高跳および砲丸投に使用する滑り止め用の炭酸マグネシウムは共有しない。希望者には競技場所にて少量渡すので、入れ物を各自準備しそれを使用する。（複数名で使いまわしはしない）。

(3) リレー競技

- 4×100m リレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大 50mm×400mm の粘着テープを 1 箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行う。

(4) 抗議

- 競技会進行中に起きた競技者の行為、または記録に関する抗議は、正式結果が発表（アナウンス）されてから 30 分以内（次のラウンドがある場合は 15 分以内）に、その種目に出場した競技者自身または代理人が「T I C」まで申し出る。

(5) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出た上で、競技役員の指示に従って行動しなければならない。
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③顧問等からの助言は競技場区域外（メインおよび芝生スタンド）のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材（スマートフォン・ビデオカメラ等）を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなし、該当の競技者は警告され、同行為を繰り返すと失格の対象となる。

10. その他

- (1) 競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものを使用できる。
- (2) スパイクピンの長さは、9mm 以内とし、走高跳は 12mm 以内とする。
- (3) 選手は観戦・応援はせず、自分の競技が終了したら、速やかに帰宅すること。
- (4) ゴミは、各自持ち帰ること。
- (5) プログラムに記載されている個人情報は、大会運営業務以外には使用しない。ただし、競技成績は、長野陸上競技協会のホームページに掲載されることがある。
- (6) 盗難事象が発生することがあるため、各校待機場所が無人にならないようにするなど、団体毎に管理をお願いしたい。
- (7) 補助競技場に走高跳のマットを出さないのので、練習をしたい場合は本競技場のマットを使用する。入場開始時間以降に入場して、練習すること。
- (8) 主催者側で傷害保険に加入する。（補償内容：通院 2500 円・入院 2500/日）
- (9) 大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染症に対するいかなる責任も負わない。